

一つぶの重み

上越市立直江津南小学校四年 市橋 茶來

「こらっ、ごちそうさま。て言。てないぞ。」

「お茶わんにご飯つぶも付いているし。」

「ごめん、でもそんなにおこらなくてもいい

のに。」

「そらのために注意してるのよ。」

また、いつものように注意されてしまいましたし

た。どうしても、毎日食事をする事に、いたただ

きます、ごちそうさま、と言うのかな。お

茶わんに付いたご飯つぶも、いつもきびしく

おこられるし。」

週末になると、近くに住んでいる祖父母の

家に集まり、みんなと一緒に昼ご飯を食べま

す。祖母は、ぼくが遊びに行く時は、おいし

いご飯を食わせてたいと、おなべを使ってガ

スでたいてくれます。すい飯器でたくご飯と

はちがい、ふ。くらピカピカのご飯です。ツ

ヤとねばりと甘味が最高で、毎回あの味に感

動します。祖父は、畑で野菜を作っていて、

とれたて野菜の料理が食たくにならびます。
おかずもおいしくて、ふだんご飯はあまりお
かわりしませんか、かならずおかわりをしま
す。みんなで食べるご飯はともおいしくて
会話もはずみます。

「好ききらいなく、たくさん食べてえらいね
と、祖父母は今日もほめてくれました。でも
家では食事の時おこられてばかりで、その時
の様子を話しました。すると祖父が、

「お米一つぶ一つぶには命があつて、いたた

きますという言葉には命をいたたくという
意味があるんだよ。お米を作る人、お米を
運んでくれる人など、お茶わんの中には、
たくさんのお人の思いがあつて、いるんだよ。
と、教えてくれました。そして祖母が、
「お米のとき汁もムダにはしないよ。竹の子
をゆでる時、えぐみや苦味を取りのぞいた
り、植物の水やりに使つと、えいようざい
がわりになるんだよ。」
と、話してくれました。

祖父母の話しを聞いて、いつも当たり前のように食べているご飯は、ぼくたちみんなの心と体のエネルギーになっていているんだと思います。毎日ご飯を食べられる事に感謝しながら、お茶わんの底に付いた最後の一滴まで、大切に持つ続けたいです。

いただきますとごちそうさまの言葉は、料理を作ってもてなしてくれた人はもちろん、お米や野菜などを作ってくれた農家の方々、動物や植物、そして自然のめぐみに感謝します。

言葉なのだと思います。食事を祖末にするということは、命や人の思いを祖末にするようになります。祖父母に教わったことをわすれずに、今日も手を合わせて、いただきます。

「ごちそうさま。」
と、感謝の気持ちをおこめて言いたいです。